



楠だより 12月

— 2022年 —

偶数月発行 NO.91 R4.12.25 発行責任者：病院長 編集：病院広報委員会

健康手帳

83

「血液検査」では 何を調べていますか？

「血液検査」は血液中のさまざまな健康状態の指標の検査ですが、検査の目的は当然ながらさまざまです。

会社に勤めている場合には、「定期健康診断」があり、ここでの血液検査には、「貧血検査、肝機能検査、血中脂質検査、血糖検査」が含まれます。これらは労働安全衛生法で義務付けられた検査で必須です。人間ドックで行う検査は、「貧血、肝臓や腎臓の異常、高脂血症、糖尿病などの病気」が含まれますが、がんの診断の一助となる「腫瘍マーカー」などもオプションとしてある場合があります。病気の早期発見、早期治療につながるものが目的となります。一方、病院で行う検査は、その患者さんごとに担当医が項目を決めて測定しており、そのほとんどが保険診療内で行われています。血液検査の基準値は、あくまで「病気がないとされる人の95%が含まれる値」であり、基準値を外れることが必ずしも異常を意味しているわけではありません。

高血圧、糖尿病、高脂血症など、現在では多くの薬が用いられ、健康維持に使用されています。血糖値やヘモグロビン A1c (HbA1c)、コレステロール値や中性脂肪値などによって、これらの薬

剤により効果が得られているか、効きすぎていないかを判断します。また多くの薬が肝臓や腎臓で分解、排泄されるため、肝臓や腎臓の働きを確認するとともに、薬による副作用が起こっていないか、ナトリウムやカリウムなど電解質バランスの乱れが無いかを調べます。



最近では、がんやリウマチなどの病気に対して、からだの免疫を担当する細胞に影響を及ぼす新たな薬が増え、これらの薬を使う場合にはホルモンや免疫系の検査などの項目が調べられます。臓器移植後や自己免疫疾患などで免疫抑制剤を服用している場合には、薬物血中濃度を測り、その薬が体の中で適切な濃度に保たれているかを調べます。



病院の 基本理念

1. 患者中心の医療の実践
2. 人間性豊かな医療人の育成
3. 先進医療の開発と推進
4. 地域医療連携の強化
5. 災害救急医療の拠点活動
6. 医療を通じての国際貢献

目次

- 健康手帳(83)「血液検査」では何を調べていますか?1
- てんかんセンターのご紹介2
- 健康レシピ 第83回 イワシと豆腐のつみれ汁3
- 診療科から 耳鼻咽喉・頭頸部外科4
- 神戸市難病相談支援センターからのお知らせ4
- がん相談室イベントのご案内4

てんかんセンターのご紹介

てんかんセンター センター長 松本理器



神戸大学医学部附属病院では、令和4年5月1日付で「てんかんセンター」が開設されました。我が国のてんかん診療は精神科、小児科、脳神経内科、脳神経外科など複数の診療科が担っており、情報提供・教育の体制が整備されない状況がありました。このような状況を打破するために、専門的な相談支援、医療機関・自治体等や患者さん・家族との連携を図り、てんかん診療や相談支援等に携わる医師に対する助言・指導や地域における普及啓発等をはかることを目的としています。神戸大学病院では、てんかんをサブスペシャリティとします小職の着任以降、診療科横断的に症例検討会を重ね、令和3年には診断の中核検査である長時間ビデオ脳波モニタリング件数が年間50件を超え、内科・外科の連携体制から、薬剤抵抗性の難治てんかん患者を対象にてんかん外科手術が始まりました。てんかんは約100人に1人の高頻度の脳神経疾患であり、患者さんの就学、就労、結婚、妊娠などのライフイベント、運転など社会生活面を含めた支援が重要です。直接の相談支援や医療従事者・関係機関職員・患者さんと家族への研修や啓発活動から支援体制の整備を図る所存です。兵庫県および近隣のてんかん患者さんの生活の質を向上するために、世界水準の診断と内科・外科治療を提供すべくセンター職員一同、精一杯努めますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

当センターでは、

- ① てんかん診断やてんかん外科術前評価の中核検査である長時間ビデオ脳波モニタリング検査*1の施行
- ② 最新の各種検査機器*2を駆使した包括的な診断と内科・外科治療（抗てんかん薬調整・てんかん外科手術）の実践
- ③ 相談支援業務と患者さんと家族・医療従事者・関係機関職員に対する研修の実施

を通じて、世界水準のてんかん診療と患者支援を推進してまいります。兵庫県の「てんかん診療の最後の砦」として、初発の発作、診断に苦慮する患者さんから、薬剤調整や薬剤抵抗性でてんかん外科手術が望まれる患者さんまで幅広く対応しますので、ご活用いただければ幸いです。

註*1 専用の個室でビデオと脳波を同時に長時間（24時間以上）記録し、てんかん波や発作症状を記録する検査です。的確なてんかんの診断や、薬剤抵抗性（難治）てんかんの外科手術の術前評価にかかせない中核検査です。

註*2 外来脳波検査、長時間ビデオ脳波モニタリング検査、CT、MRI、PET-MRI、SPECT、各種神経心理検査など、診断から術前評価まで世界水準の検査機器で対応します。

診療科横断的に「てんかん診療の外来」を行っています。

	月	火	水	木	金
脳神経内科	十河		的場	松本	十河
脳神経外科		篠山、藤本			篠山
小児科	永瀬	徳元、老川			永瀬、富岡、山口
精神科神経科	青山			岡崎、大塚	

脳神経内科：長時間ビデオ脳波モニタリング検査、てんかん診療の相談支援・助言指導

脳神経外科：頭蓋内電極留置によるてんかん焦点部位解析、てんかん外科手術（てんかん焦点切除術や脳梁離断術、迷走神経刺激療法など）

小児科：長時間ビデオ脳波モニタリング検査、遺伝子検査

精神科神経科：てんかん患者さんの精神症状の評価

受診希望の場合は、かかりつけ医から紹介予約申込書にご希望の診療科の「てんかん外来受診希望」と記載いただいでください。



てんかんセンター運営委員会メンバー

左より、
 十河正弥助教（脳神経内科）、藤本陽介助教（脳神経外科）、
 永瀬裕朗特命教授（小児科）、松本理器教授（脳神経内科、
 センター長）、篠山隆司教授（脳神経外科、副センター長）、
 青山慎介准教授（精神科神経科）、
 廣田大看護師長（9北病棟）、山口宏特命助教（小児科）

連絡先 脳神経内科 医局 TEL：078-382-5885（受付時間 平日 9:00～17:00）



一品料理で満足感アップ

冬のおもてなし減塩料理編

イワシと豆腐の つみれ汁

栄養量 (1人分)	
エネルギー	179kcal
たんぱく質	13.9g
脂質	8.7g
炭水化物	9.3g
(糖質)	7.6g
食物繊維	1.7g
食塩相当量	0.8g

寒い日が続くと温かい料理を食べてほっとしたくなりますね。今回は身も心も温まるイワシと豆腐のつみれ汁をご紹介します。イワシと豆腐で作ったつみれはふわふわとした優しい食感となっており、色とりどりの野菜を使うことで見た目も鮮やかでおもてなし料理にもおすすめです。また、減塩調味料を使用するだけでなく、昆布とかつお節でだしをとり、生姜汁、ゆず皮を使用することで薄味でも美味しい一品になっています。ぜひ、ご家庭でもお試しください。



※写真のお皿は内径13cm、盛り付けは1人分です。

材料 (4人分) 作り方

材料 (4人分)	
【つみれ】	
まいわし	200g (4尾) ※骨、内臓等除く
木綿豆腐	150g
青ネギ	10g
片栗粉	15g (大さじ1と1/2)
酒	5g (小さじ1)
A みそ	2g (小さじ1/3)
減塩しお	0.5g
生姜汁	20g
【具】	
大根	40g
ごぼう	40g
人参	40g
舞茸	40g
えのき茸	40g
三つ葉	5g
白ネギ	10g
ゆず皮	5g
【汁】	
水	1リットル (5カップ)
昆布	15g
かつお節	20g
酒	20g (大さじ1と1/3)
B 減塩しお	1.5g
減塩しょうゆ	10g (大さじ1/2強)

- 【下準備】**
- ・水1リットルに昆布を入れ、一晩漬けて昆布水を作る。
 - ・木綿豆腐はキッチンペーパーに包み、十分に水気を切っておく。
 - ・青ネギは小口切りにする。大根は厚さ5mmのいちょう、ごぼうは厚さ5mmの斜め切りにする。人参は花形にくり抜き、舞茸、えのき茸は食べやすい大きさに手で割く。三つ葉は食べやすい大きさに切り、白ネギ、ゆず皮は千切りにする。
- 1 昆布水を鍋に入れて火にかけ、沸騰直前に昆布を取り出す。ぬめりを取るためにひと煮立ちさせ、かつお節を入れ、火を止めて5分置いた後にザル等を用いてこす。
 - 2 まいわしを包丁で細かく叩き、水気を切った豆腐、青ネギを加え、Aを加えて粘り気が出るまで混ぜ合わせる。
 - 3 1のうち600ml (3カップ)、大根、ごぼう、人参を鍋に入れ、火にかける。
 - 4 大根、ごぼう、人参がある程度軟らかくなれば、2のつみれを丸めて落とし入れ、Bと舞茸、えのき茸を入れて煮込む。
 - 5 野菜とつみれに火が通ったら器に汁ごと盛り付け、上に三つ葉、白ネギ、ゆず皮を添えて完成。

計量の単位：
1カップ=200ml、大さじ1=15ml、小さじ1=5ml

ここがポイント

- ・減塩しお、減塩しょうゆは塩分50%カットのものを使用しています。
- ・最後に水溶き片栗粉(分量外)を加えてさっと加熱し、汁にとろみをつけると冷めにくく美味しく召し上がれますよ。

メニュー考案：エームサービス(株) 高橋 利矩、編集：栄養管理部 中谷 早希

食事・栄養についてのご相談は、月～金曜日に予約制で行っています。お気軽に医師、看護師、管理栄養士にお申し出ください。

●栄養相談に関する問い合わせ先●
栄養管理部 ☎078-382-6820 (直通)
 受付時間 平日8:30～17:15

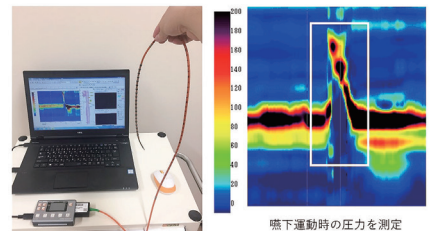
耳鼻咽喉・頭頸部外科

皆さんは耳鼻咽喉・頭頸部外科にどのようなイメージをお持ちでしょうか？耳鼻科と略される様の中耳炎や難聴など耳の病気、アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎など鼻の病気、風邪や扁桃炎などのどの病気で受診されることが多いと思います。最近では当院のように名前に「頭頸部外科」が付くことが増え、舌癌・喉頭癌などの悪性腫瘍や嚥下障害などの治療も担当する診療科です。

当院ではこれらの全分野を担当しますが、特に小・中規模病院では対応困難な持病をお持ちの患者さんや、高度先進医療、多くのスタッフが必要な悪性腫瘍の治療に力を入れており、年間約800件の手術を行っています。最先端の専門的医療として人工内耳埋め込み術、好酸球性副鼻腔炎の薬物療法、鼻副鼻

腔腫瘍に対するナビゲーション併用内視鏡手術、音声改善のリハビリテーションや手術、がん免疫療法やロボット支援手術など頭頸部がんに対する最新最善の治療法を提供しています。

今年7月に、当科が中心となって院内に摂食・嚥下支援チームを立ち上げました。従来から、食事がうまく飲み込めない、よくむせてしまうなど、嚥下障害にお悩みの患者さんに、嚥下外来という当科の専門外来で取り組んできました。より迅速に、幅広く当院にご入院中の患者さんに対応するために、歯科口腔外科、リハビリテーション科、言語聴覚士、認定看護師、管理栄養士、薬剤師、作業療法士など多くのスタッフが参加して結成しました。写真のように最新の嚥下圧測定検査も導入いたしました。高齢の患者さんが増えるにつれて、ご相談を頂く件数も増えております。皆様のご期待に添えるよう、さらにチーム力の向上に努めて参ります。



神戸市難病相談支援センターからのお知らせ

難病療養者さんとそのご家族が、地域で安心して過ごしていけるよう、相談支援を行っています。

【相談室の利用方法】

- 相談方法：電話相談（1回20分程度）
対面相談（1回30分程度）
- 相談員：医療ソーシャルワーカー、看護師
- 相談日時：9時～12時、13時～16時30分
（土・日・祝祭日・年末年始除く）

療養・生活相談

制度利用
医療費負担
患者会紹介
不安 など

就労相談

ハローワークの難病就職
サポーターによる
個別相談
（要予約）



予約優先
☎ 078-382-6600

正面玄関入ってすぐ左手 正面玄関
外来診療棟1階 総合相談窓口

がん相談室イベントのご案内

がん患者さん・ご家族向け勉強会

2023年3月4日（土）
13:30～15:30



テーマ

一緒に学ぼう！
がんになってもあなたらしく

放射線治療、緩和ケア、運動療法、仕事のことなど
参加対象：どなたでも
詳細・お申込みはこちらから ▶



がん患者サロン

2023年1月12日（木）
15:00～16:00

参加対象：がん治療中または療養中の方
詳細・お申込みはこちらから ▶



【お問い合わせ先】
がん相談室

☎ 078-382-5830（受付時間 9:30～16:30）



院外処方箋の使用期限は
発行日を含めて**4日間**です。



病院敷地内
全面禁煙



忘れ物、落とし物は、1階
受付6番窓口でお預かり
しています。内線3075